



子育て・教育 GENKI 集会

第1分科会は、小学生の子どもたちが生き生きと学べるような子育てと学校教育について考えます。

学力が心配

親の立場から

「ゆとり教育」とか、「指導要領の内容が3割減った」とか、「教科書が薄っぺらになっただ」とか、「家でもほとんど勉強しない」とか、その一方で、世の中は、「リストラ」、「競争と自己責任の時代」だとか、とかく子どもの将来

のことが不安に感じられてなりません。

そんななかで、早くから塾に行かせ、何とか人に遅れないように願わくば、よりましな大学にと思っ親心はもつともなことでしょう。そこで、「百マス計算」だとかいう学習方法がもてはやされたりしています。

教師の立場から

「どうも子どもたち

が授業に乗ってこない」、「宿題をやったかない」、「考えるのを面倒くさがる」、「友だち関係がうまくいかない」、「生活体験が薄くなっている」、「保護者からは「総合なんてやってないでちゃんと勉強を教えて」という批判、「学校は、単に知識を覚えさせるだけではない、全人的な教育の場だと思っが、それが親には伝わらない」そんな嘆きが聞かれます。

「学力」ってなに

「学力」が身に付いていけば、一人前に生きていける。

子どもにまともな人生を歩いていける能力を身につけてほしい。そのねがいが「学力」という言葉に表されているのでしよう。

どうしたら「学力」がつくの

「学力」とは、学んで身に付いた力、学んでいく力。そう考えると、「学ぶ」という積極的な意志がなければどうにもならないようです。ところがいまの日本の子どもたちには、その意欲が失われているともいわれています。でも本当にそうでしょうか。

第1分科会

学ぶ意欲を育てる
(小学校)
～お宅のお子さん、勉強好きですか?～

助言者

梅原利夫さん
(和光大学教授)